

NPO 法人 ふろんていあタウン工房

ふろたん通信

2021年4月25日 広報センター No. 38



先が見えないパンデミック！ 新型コロナウイルス禍で外出自粛・イベント中止など自粛ムードが拡がりふろたんメンバーも多くが在宅勤務になったりして交流がままならない中での発信になった という見出しでお届けしたのが 1 年前の 4 月 22 日付の通信 35 号、最初の緊急事態宣言の時でした。

今回の「ふろたん通信」38 号は、**3 度目の緊急事態宣言スタートの日の発信です。**

◆2021年2月1日 ミャンマー軍事クーデター

2月2日の毎日新聞は、日本在住のミャンマーの人たちがアウンサンスーチーさんの写真を掲げて国軍のクーデターに抗議の声をあげている「ミャンマー平和的解決を」という記事を書いています。昨年のふろたん新春インタビューでインパール従軍から今泉ビルマ記念奨学会活動の話まで、今泉清詞さんと一緒に話し合っていたいただいた城西大学教授のティティレィさん（ミンガラバー・ユネスコクラブ）の国軍クーデターを懸念するコメントも載っていました。

27日の毎日新聞では、市民が抵抗の象徴として使っている3本指を立てるポーズ取ったミャンマーのチョー・モー・トゥン国連大使の写真と「**2月26日の国連総会で国軍のクーデターを非難し、罪なき人々への抑圧をやめさせ民主主義を回復するために私たちは国際社会の最も強い行動を必要としている。**」という演説、グテレス国連事務総長が「感動的な瞬間で勇気あるものだった」と述べたという記事を書きました。



◆4月18日 芝増上寺鎮魂供養

今迄毎年必ず出掛けていた芝増上寺での「ミャンマー祭り」（一般社団法人ミャンマー祭り実行委員会主催）、2020年5月に予定されていたミャンマー祭りは中止、今年5月の予定もまだ確定していない状態ですが、その増上寺で日本ミャンマー友好協会主催の増上寺の僧侶とミャンマー人僧侶による、**ミャンマーのクーデターで命を奪われた人々の鎮魂供養とミャンマーの平和を祈る集い**が行われました。



◆緊急事態宣言下の自粛生活

最初の緊急事態のときの通信 35 号では、「自粛ムードはしばらく続きそうです。外出禁止で引き籠り生活になってしまってもイラつくことなく、緊急事態宣言によって与えられた想定外の貴重な時間と思いその時間を活かすことを考えて過ごしてみましょう。」と呼びかけましたが、今回はそんな余裕がない感じです。世の中・世界の分断が進み、**4月24日にはミャンマー情勢についての ASEAN 首脳会議が開催**されましたが終息の兆しは見られません。

ビクトリア山第1・2次隊の時にガイドを務めてくれたウィメンテイ（Wai Min Htay）さんが、今アウンサンスーチーさんの CRPH（連邦議会代表委員会）を応援して活動を続けており、状況をメールで知らせてくれていましたが、最近では電波が届かないのか連絡も滞りがちです。これからも出来る限りの支援を続けていきたいと考えています。



《NPO 団体仲間の最近状況》

4月22日「ミンガラバー・ユネスコクラブ」から「ふるさと東京ユネスコ協会」と連名の**ミャンマー緊急支援**（第1次締切日6月30日）の協力のお願いが届きました。

昨年7月の通信 36 号で、毎年4月から5月には開催していたふろたん工房総会が新型コロナの影響で7月9日にやっと開催になり、あと半年しかない異例の令和2年度がスタートしたと書いていましたが、今年は**4月15日「まちなび倶楽部」**が新年度総会を開催、先行き不透明な中でも居心地観察会とニュータウン調査を継続、**特例として1年間の会費免除**を決めています。そこまではふろたんにはチョットまねができませんが…（笑）